本の紹介

『知らずに食べていませんか？　ネオニコチノイド』高文研

ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議監修・水野玲子編著

あまり文字は読みたくないけれど、危険な情報はひとまず知っておきたいと思っている方に、文字が少なく絵が半分ぐらいで、あっという間に読める新しいネオニコチノイド農薬の本ができました。この本はそもそも、NPO 法人ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議が作成し、大変好評だったネオニコチノイドのパンフレット『新農薬ネオニコチノイドが脅かすミツバチ・生態系・人間』を書籍化してはどうかという出版社の意向で、頁数を追加して本にしたものです。すでにパンフレットは全国で３万部以上配布されました。

２年前に筆者が出版した『新農薬ネオニコチノイドが日本を脅かす』（七つ森書館 2012２年）は多少難しく、詳しくこの問題を理解していただくために役立っていますが、本書は、子育て中のお母さん方に、忙しい合間にちょっと手にとって眺めていただいても、自分たちが今食べている農薬のことを理解してもらえるようにまとめました。

そもそもネオニコチノイド農薬の多くは日本人が開発したものですが、それらが農作物だけでなく、私たちの生活のあらゆるところで現在では使用されています。そして、このネオニコチノイド農薬が、人も含む哺乳類の神経発達に悪影響を及ぼすという論文が日本人によって発表されました。

ＥＵではこの農薬が危ないので３成分を一時使用中止し、この論文に注目した欧州食品安全機関（EFSA）は 2013 年末、ネオニコチノイド農薬が子どもの脳の発達に悪影響を及ぼす可能性があると警告し、世界中のメディアがそれを取り上げました。そのことは日本ではあまり注目されていませんが、この農薬の残留基準は、日本がＥＵに比べて非常に緩いので、私たち日本人は日々の食事からネオニコチノイド農薬をたくさん摂取しています。日本の子供を守るためにも、とくに若いお母さん方には是非とも本書を読んでいただきたいと思います。

目次：　１.ミツバチに何が起こったのか　　２．ネオニコチノイド農薬って何？
　　３.こわれる生態系、消えるトンボや鳥　　４．神経を狂わせるネオニコチノイド
　　５．新しい取り組み　海外と日本の対応

注文方法：　本屋さんやアマゾンで購入できますが、電話またはファックスで高文研に注文する場合、３冊以上送料無料、５冊以上割引あり。

高文研　電話：03-3295-3415　ファックス：03-3295-3417